


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成26年11月18日

山北町議会議長 池谷 莊次郎 殿

受付番号	第6号	質問議員	11番	小栗直治	
件名	鳥獣被害対策を				
要 旨					
<p>三保・清水・共和地区は、猿鹿猪が、人家近くの田畑まで降りてきて、丹精込めた野菜など一夜にして根こそぎ食い荒らします。</p> <p>このまま放置しておく、農業意欲が無くなり、放任園が拡大し山間地農業が消えてしまいます。町行政として山間地農業を、これからどのように守り指導されるのか、次の4点について伺います。</p> <p>① 平成26年10月1日に設置された「山北町鳥獣被害対策実施隊」について</p> <p>イ) 具体的にどんな活動をするのか。</p> <p>ロ) 現在行われている被害届から捕獲までと、あまり変わらないのではないかと思います。どうなのか。</p> <p>ハ) いろいろな手続きをふんで、実施されることは理解しますが、被害予防も考え動物駆除が即座にできるシステムが必要ではありませんか。</p> <p>二) 自己防衛として個人が、自分の畑に罠などをかけて捕獲した場合も、最終処分はこの実施隊が対応してくれますか。</p> <p>② 猿対策について</p> <p>丹沢湖の周りには、3つの群れが居ると言われています。この一群には小猿も含め40匹前後で全体では100匹を超えています。この一群が丹沢湖周辺から南下し、清水地区の用沢から宮原、大蔵野地区まで移動します。</p>					

帰りは川西地区を北上し、手当たりしだい農産物を食い荒らします。町から支給されたロケット花火を小猿に向けて発射すると、親猿やボス猿が牙を出して人間を威嚇します。今や花火では、ほんの数メートル逃げるだけで、音だけの脅しでは、何の対策にもならなくなってしまいました。町として、次の対策として何を実施検討されていますか。

③ 鹿について

イ) 鹿は今や、山に住まず里の放任農地にいます。日中堂々と茶畑や野菜畑にいます。県が示す管理捕獲は農家住民にとって、どこまで被害が減少したのでしょうか。鹿被害は野菜ばかりか、庭に植えた花や、お茶の葉、らっきょう、こんにゃくの葉まで食べてしまいます。

ロ) 鹿が原因の一つとされる「ヤマビル」についても、毎年エリア拡大されています。町は鹿に対して、これからどんな手段で対応されますか。

④ 猪について

猪は防護柵を作っても、柵の下に穴を掘り侵入します。また農地の周りの石積みやミミズなどを食べます。これまた猪が増えると農地が破壊されます。このように、町民が楽しみながら野菜作りをし、農地を農地らしく保全したり、町の人口を少しでも増やすための、家庭菜園つき住宅などの開発にも、鳥獣被害対策を早期に確立し、定住増の魅力の一つにしなければならないと考える。

以上